

6. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果 生活サービス機能や地域活動の拠点となる「小さな拠点」の形成を推進することを通じ、地域住民の生活に必要なサービス機能や地域コミュニティの維持・活性化を図る。

| | | | | | | | | | |
|-------------------------------|-----------------------|--|------------|---------------------------|------|------|------|------|--------------|
| 指標 | 指標名 | 小さな拠点の形成数 | | | | | | | 指標の種類 |
| | 指標式 | 生活サービス機能や地域活動の拠点となる「小さな拠点」の形成数（平成28年12カ所。平成33年度までに20カ所の形成を目標とする）（累積） | | | | | | | 成果指標 業績指標 |
| | 年度別の目標値（見込まれる成果による指標） | | | | | | | | |
| | 指標 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 最終年度 |
| | 目標a | | 12 | 14 | 15 | | | | |
| | 実績b | 12 | 12 | データ等の出典 | | | | | |
| | 東北 全国 | | 224 908 | 小さな拠点形成に関する実態調査（内閣府）及び県調べ | | | | | |
| 把握する時期 当該年度中 09月 翌年度 月 翌々年度 月 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------------------------|-----------------------|------|------|---------|------|------|------|------|--------------|
| 指標 | 指標名 | | | | | | | | 指標の種類 |
| | 指標式 | | | | | | | | 成果指標 業績指標 |
| | 年度別の目標値（見込まれる成果による指標） | | | | | | | | |
| | 指標 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 最終年度 |
| | 目標a | | | | | | | | |
| | 実績b | | | データ等の出典 | | | | | |
| | 東北 全国 | | | | | | | | |
| 把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月 | | | | | | | | | |

指標を設定することができない場合の効果の把握方法
 指標を設定することが出来ない理由

 見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性
 人口減少や高齢化の進行により、従来からの地域コミュニティ活動の継続が困難になってきており、地域コミュニティの維持・活性化に向けた持続的な活動を支える仕組みづくりを支援する必要があることから、事業の実施は妥当である。

住民ニーズに照らした事業の必要性
 小さな拠点の形成は、このままではなくなってしまう生活サービス機能の回復・確保に向けた取組であり、将来にわたって地域住民が暮らし続けることができる地域づくりとこのための活動拠点の形成を目的としていることから、事業の実施は妥当である。

事業の県関与の必要性
 法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの
 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

小さな拠点の形成を推進するためには、地域住民に対して市町村が支援する必要があるが、市町村によって小さな拠点形成の認識に温度差があり、具体的な取組に繋がっていないため、このままでは解決しない。全県的に普及啓発を図り、地域住民の当事者意識を高めるためにも、県が先導して取り組むものである。

| | | | |
|--|--|-----------|-----------------------|
| | | 政策評価委員会意見 | 重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定 |
| | | | 重点事業 其他 |